

## 平成16年度決算の公表にあたって

8月29日付けで、国立大学法人宇都宮大学の平成16年度決算が文部科学大臣より承認されましたので、ここに公表させていただきます。

国立大学法人には病院の経営もありますが、基本的にはその事業は教育研究であり、企業とは異なり、事業の実施により利益の獲得を目的とするものではありません。決算においては、計画通りに事業を行えば、総損益は概ね均衡する仕組みになっております。

従って、運営費交付金や授業料は、その年度の中で有効に教育研究に生かすべきで、そのためには、普段の経理状況の把握や節約に努めることは当然です。本学では、担当者の努力もあり、きめ細かな対応を行った結果、黒字9,200万円は適切な範囲に納まっているものと考えています。

平成16年度決算においては、国立大学法人移行時の国からの承継資産等に係る特例な会計処理が加えられた結果、国立大学法人の通常の業務活動から生じた利益以外の利益が損益計算に組み込まれています。特に、診療報酬債権、医薬品等のたな卸資産が臨時的な利益として計上された附属病院のある大学については、当期総利益が相対的に大きくなっています。

こうしたことから、宇都宮大学においては、引き続き経費の節減・合理化並びに期中における予算執行状況の把握及び見直し等による適切な予算執行に努めるとともに、外部資金の獲得の拡充等自己収入の増、さらには、弾力化された予算繰越しの仕組みを活用しながら、教育研究活動のさらなる充実・発展のため中長期的な財務経営基盤を強化していくことが、不可欠と考えておりますので、今後とも一層のご支援をお願いいたします。

平成 17 年 8 月 29 日  
国立大学法人宇都宮大学長 田原 博人

### 参 考

新聞等では、「国立大学利益1,103億円」とか「実質黒字53億円」という見出しで報道されています。平成16年度決算においては、国立大学法人移行時の国から承継資産等に係わる会計処理が加えられた結果、国立大学法人の通常の業務活動から生じた利益以外のものが臨時利益として損益計算上組み込まれています。また特に、附属病院のある大学には、診療報酬債権、医薬品等のたな卸資産が利益として計上された結果、当初総利益が大きくなっています。しかし、そうしたものを除いた実質黒字は国立大学全体で53億円であり、本学の黒字9,200万円はほぼそれに対応したものとなっています。

## 平成16年度決算について

16年4月1日をもって、「国立大学法人宇都宮大学」として、「豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ 宇都宮大学」をモットーに新たにスタートしました。

国立大学法人は、国民に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点から、財務諸表の作成及び公表が義務付けられておりますが、初年度（平成16事業年度）の決算が、17年8月29日付で文部科学大臣に承認されました。

決算の承認に当たっては、会計監査人及び監事の監査を受けた財務諸表について経営協議会の審議や役員会決議を経て6月末に文部科学大臣に提出し、文部科学大臣は国立大学法人評価委員会の意見を聴いたうえ、承認を行ったところです。

なお、国立大学法人の財務諸表は、企業会計を原則としつつ、独立行政法人会計基準を基礎として、国立大学法人の主たる業務内容が教育・研究であることの特性に配慮した「国立大学法人会計基準」に基づいて作成しています。

### 16年度決算の概要

#### 1. 貸借対照表（財務状況）

16年度末の総資産は785億6,900万円、総負債は62億1,200万円、総資本は723億5,700万円となりました。なお、総資産の9割を占める土地、建物などそのほとんどは、国から出資・承継されたものです。

#### 2. 損益計算書（経営状況）

経常収益は96億4,900万円、経常費用は95億7,200万円、経常利益は7,700万円となりました。また、経常利益に法人移行時限りの要因等による臨時損益を加えた当期総利益は、9,200万円となりました。

なお、経常利益7,700万円の主な発生要因は、経費の節減、合理化等によるもの3,000万円、17年度入学生に係る入学料及び検定料収入の増等4,700万円となっています。この結果、経常収益96億4,900万円に占める経常利益の割合は約0.8%であり、損益はほぼ均衡しているところです。

#### 3. 当期総利益の処分（使途）等

当期総利益は別途文部科学大臣の利益処分承認後、目的積立金として整理の上、中期目標期間中の剰余金の使途（教育研究の質の向上及び組織運営の改善）に充当することとしています。

一方、運営費交付金には平成17年度以降、効率化係数（対前年度 1%（教員人件費を除く））が課され、本学の場合、その影響額は毎年約5千万円となっています。

貸借対照表の概要  
(平成17年3月31日)

(単位:百万円)

(資産の部)			(負債の部)		
固定資産	77,009	(98.0%)	固定負債	4,091	(5.2%)
1.有形固定資産	76,962	(98.0%)	資産見返負債( 3)	3,535	(4.5%)
土地	61,655	(78.5%)	長期借入金( 4)	556	(0.7%)
建物	11,736	(14.9%)			
減価償却累計額	1,091	( 1.4%)	流動負債	2,120	(2.7%)
構築物	1,246	(1.6%)	運営費交付金債務	288	(0.4%)
減価償却累計額	288	( 0.4%)	寄附金債務	283	(0.4%)
工具器具備品	1,152	(1.5%)	短期借入金( 5)	278	(0.3%)
減価償却累計額	310	( 0.4%)	その他	1,270	(1.6%)
小計	<u>74,101</u>	<u>(94.3%)</u>			
図書( 1)	2,823	(3.6%)	負債合計	6,212	(7.9%)
その他	37	(0.0%)			
2.無形固定資産	46	(0.1%)	(資本の部)		
(特許権・ソフトウェア等)			資本金	73,686	(93.8%)
			資本剰余金	1,421	( 1.8%)
流動資産	1,560	(2.0%)	資本剰余金	75	(0.1%)
現金及び預金	1,420	(1.8%)	損益外減価償却累計額	1,496	( 1.9%)
有価証券( 2)	100	(0.1%)	利益剰余金		
その他	39	(0.0%)	当期末処分利益( 6)	92	(0.1%)
資産の部合計	78,569	(100.0%)	資本の部合計	72,357	(92.1%)
			負債資本合計	78,569	(100.0%)

注) 端数処理は切捨で処理しており、計は必ずしも一致しない。

( 1) 図書は、教育・研究用のもののみであり、事務用は含まない。

( 2) 有価証券は、償還期限1年未満の利付き国債である。

( 3) 資産見返負債は、運営費交付金、授業料、寄付金及び国から承継された物品等の償却資産について、取得に際し、その同額を取得財源から振り替え、当該償却資産について、減価償却処理を行う都度、その同額を取り崩しの上収益化して損益均衡させる仕組み

( 4) 長期借入金は、産業融資特別会計借入金の未償還残額である。

( 5) 短期借入金は、固定負債のうち長期借入金にかかる平成17年度中の償還予定額である。

( 6) 当期末処分利益は、損益計算書の当期利益と一致する。

損益計算書の概要  
(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

(単位:百万円)

経常費用		
業務費	9,044	(94.5%)
教育経費	610	(6.4%)
研究経費	829	(8.7%)
その他	436	(4.6%)
役員人件費	89	(0.9%)
教員人件費	5,030	(52.5%)
職員人件費	2,046	(21.4%)
<u>人件費小計</u>	<u>7,165</u>	<u>(74.9%)</u>
一般管理費	526	(5.5%)
雑損	2	(0.0%)
経常費用合計	9,572	(100.0%)
経常収益		
運営費交付金収益	5,904	(61.2%)
学生納付金収益	3,021	(31.3%)
受託研究等収益	271	(2.8%)
寄付金収益	130	(1.4%)
資産見返負債戻入	178	(1.8%)
その他	143	(1.5%)
経常収益合計	9,649	(100.0%)
<b>経常利益</b>	<b><u>77</u></b>	<b>(0.8%)</b>
臨時損失	1,010	(100.0%)
承継償却資産	1,002	(99.2%)
その他臨時損失	7	(0.7%)
臨時収益	1,025	(100.0%)
物品受贈益	1,002	(97.8%)
その他臨時利益	22	(2.1%)
<b>臨時利益</b>	<b><u>15</u></b>	<b>(1.5%)</b>
<b>当期総利益</b>	<b><u>92</u></b>	<b>(0.9%)</b>

注) 端数処理は切捨て処理しており、計は必ずしも一致しない。

( 1) 業務費の表示科目は、通常の消耗品費、水道光熱費等の用途形態に応じてではなく、使途目的に応じて表示している。

( 2) 経常利益率は、経常費用に対する経常利益の比率である。

( 3) 臨時利益率は、臨時損失に対する臨時利益の比率である。

( 4) 当期総利益率は、経常費用と臨時損失の合計に対する当期総利益の比率である。

## 平成16年度貸借内訳

単位:百万円

(資産の部)		(負債の部)	
固定資産	77,009	固定負債	4,091
		流動負債	2,120
		(資本の部)	
		資本金	72,265
		利益剰余金	92
		負債の部合計	6,212
		資本の部合計	72,357
流動資産	1,560		
資産の部合計	78,569		
		負債の部合計	6,212
		資本の部合計	72,357
			78,569

## 平成16年度損益内訳

単位:百万円

(収益)		(費用)	
運営費交付金収益	5,904	業務費	9,044
		人件費	7,165
学生納付金収益	3,021	一般管理費等	528
受託研究等収益	271		
寄付金収益	130	臨時損失	1,010
その他収益	321		
臨時収益	1,025	当期総利益	92
収益合計	10,674	費用合計	10,582
		当期総利益	92
			10,674

注) 端数処理は切捨で処理しており、計は必ずしも一致しない。

# 豊かな発想を地域に、新たな知を世界へ 宇都宮大学

参 考

## 宇都宮大学の特色ある取組み

### 4. 地域に開いた大学を目指して

- 自治体との連携強化
- ・2日間にわたる知事との懇談
- 「大学コンソーシアムとちぎ」の発足
- 高大連携の強化

### 社会に開いた大学を目指して

### 3. 社会に開かれた客観的な経営

- 外部有識者の積極的活用
- ・点検・評価会議への経営協議会外部委員の参画
- ・経営協議会委員と教育研究評議員の懇談
- 監事監査機能の充実等
- ・監事監査機能の充実
- ・学内主要会議への積極的参画と助言



### 1. リーダーシップの確立と柔軟な資源配分

- 学長のリーダーシップを支える運営連絡会議
- 学長裁量経費等による戦略的な支援強化
- 学内公募による競争的経費の強化
- 戦略的・効果的な人的資源の活用
- ・人材育成ビジョンの策定・階層別懇談会の実施
- ・学長裁量の流動定員枠の有効的活用

## 飛躍の基礎づくり



### 2. 経営の確立と活性化

- 財務内容の改善・充実
- ・アウトプット・アウトカム指標の試作
- ・経費節減基本方針の策定・実施
- 人的資源等を活用した教育研究組織の整備
- 施設マネジメントの確立等

### 5. 学生の視点に立った取組み

- 寄附講座の積極的導入
- ベストティーチャー賞の創設
- 課外活動の積極的支援と整備
- 修学環境の整備
- 国際キャリア合宿セミナー

### 学内公募による競争的経費の強化

- ・重点研究プロジェクト、若手教員の研究助成、地域貢献支援、特色ある国際交流支援
- ・個性化関連経費、教育充実・改善支援